

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

本調査は、子どもの体力・運動能力等の状況を把握・分析することにより、その向上に係る施策の成果と課題を把握・検証し、改善を図ることを目的として平成20年度から実施されています。

網走市教育委員会では、市内のすべての子どもが、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けることができるよう、本調査の結果を学校における体育・健康に関する指導の改善に役立ててまいります。また、学校、家庭、地域が一体となった体力向上の取組をより一層進めていくため、調査結果及び分析内容を公表いたします。

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 子どもの体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の実施時期 令和7年4月から7月末までの期間で実施

(3) 調査の対象【悉皆調査】

小学校 9校	網走小学校、中央小学校、西小学校、呼人小学校、南小学校、潮見小学校、東小学校、白鳥台小学校、西が丘小学校
中学校 6校	第一中学校、第二中学校、第三中学校、第四中学校、第五中学校、呼人中学校
児童生徒数	小学校第5学年 男子 99名 女子 92名 合計191名 中学校第2学年 男子129名 女子123名 合計252名

(4) 調査の内容

① 児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査（以下、「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）

小学校調査 〔8種目〕	握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
中学校調査 〔8種目〕	握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ ※持久走と20mシャトルランはどちらかを選択。

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という）を実施する。

- ② 学校における子どもの体力向上に係る取組等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という）を実施する。

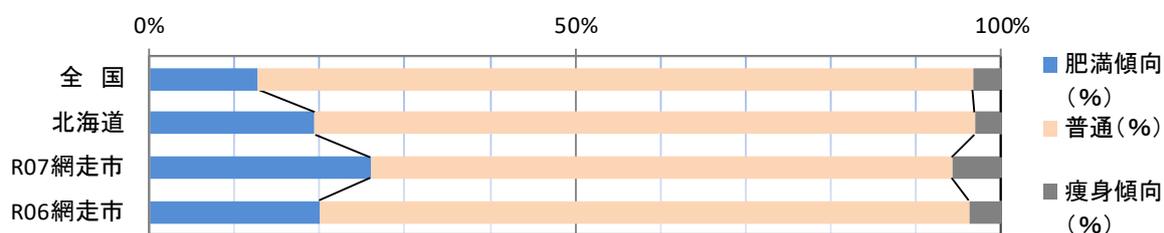
2. 結果の概要

(1) 体格に関する調査

① 小学校5年生男子

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長(cm)	体重(kg)	肥満傾向(%)	普通(%)	痩身傾向(%)
全 国	139.53	35.01	12.8%	83.9%	3.3%
北海道	140.09	36.73	19.4%	77.5%	3.1%
R07網走市	140.47	37.81	26.0%	68.2%	5.8%
R06網走市	139.60	37.10	20.0%	76.2%	3.8%

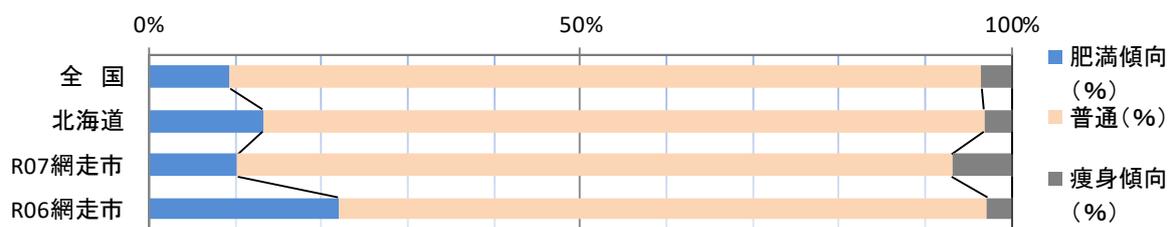
小学校5年生男子 肥満傾向児・痩身傾向児



② 小学校5年生女子

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長(cm)	体重(kg)	肥満傾向(%)	普通(%)	痩身傾向(%)
全 国	140.81	34.70	9.4%	87.1%	3.5%
北海道	141.52	35.93	13.2%	83.7%	3.1%
R07網走市	142.61	36.00	10.3%	82.8%	6.9%
R06網走市	140.48	36.27	22.0%	75.2%	2.8%

小学校5年生女子 肥満傾向児・痩身傾向児



【小学校5年生男子】

肥満傾向児が26.0%に達している。身長も全国平均より約1cm高く、骨格的にも恵まれているが、体重のプラス幅(+2.8kg)が身長の伸びを上回っており、体脂肪率の増加が推測される。車社会による歩行不足、冬場の活動量低下、高カロリーな食習慣など、地域特有の環境要因が複合的に影響している可能性が高いと考えられる。

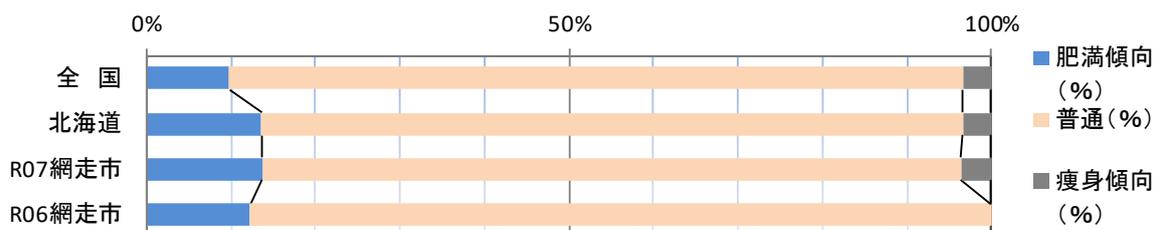
【小学校5年生女子】

痩身傾向が6.9%と、全国平均の約2倍になっている。現代社会における「痩せ願望」の低年齢化や、スポーツ活動の影響も一部考えられるが、成長期におけるエネルギー不足は、将来的な骨粗鬆症や月経異常のリスクを高めるため、男子の肥満対策と同様に、適正体重の維持に関する指導が必要である。

③ 中学校2年生男子

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長(cm)	体重(kg)	肥満傾向(%)	普通(%)	痩身傾向(%)
全 国	161.31	50.11	9.8%	86.8%	3.4%
北海道	162.37	52.07	13.6%	83.0%	3.4%
R07網走市	163.57	53.50	13.7%	82.7%	3.6%
R06網走市	163.61	54.06	12.2%	87.8%	0.0%

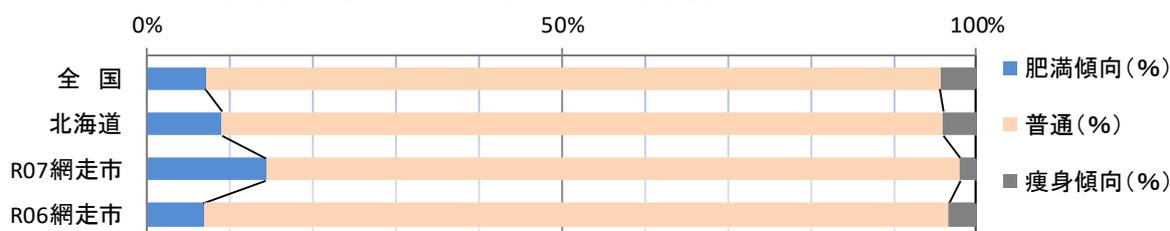
中学校2年生男子 肥満傾向児・痩身傾向児



④ 中学校2年生女子

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長(cm)	体重(kg)	肥満傾向(%)	普通(%)	痩身傾向(%)
全 国	155.06	46.88	7.1%	88.5%	4.4%
北海道	155.40	47.69	9.0%	87.0%	4.0%
R07網走市	154.79	48.95	14.3%	83.7%	2.0%
R06網走市	154.95	47.50	6.8%	89.8%	3.4%

中学校2年生女子 肥満傾向児・痩身傾向児



【中学校2年生男子】

身長が全国平均より2cm以上高く、体重も3kg以上重い。この時期の男子は、第二次性徴に伴う筋肉量の増加が顕著であることや、部活動等の運動刺激によりバランスの取れた体格になっていると考えられる。

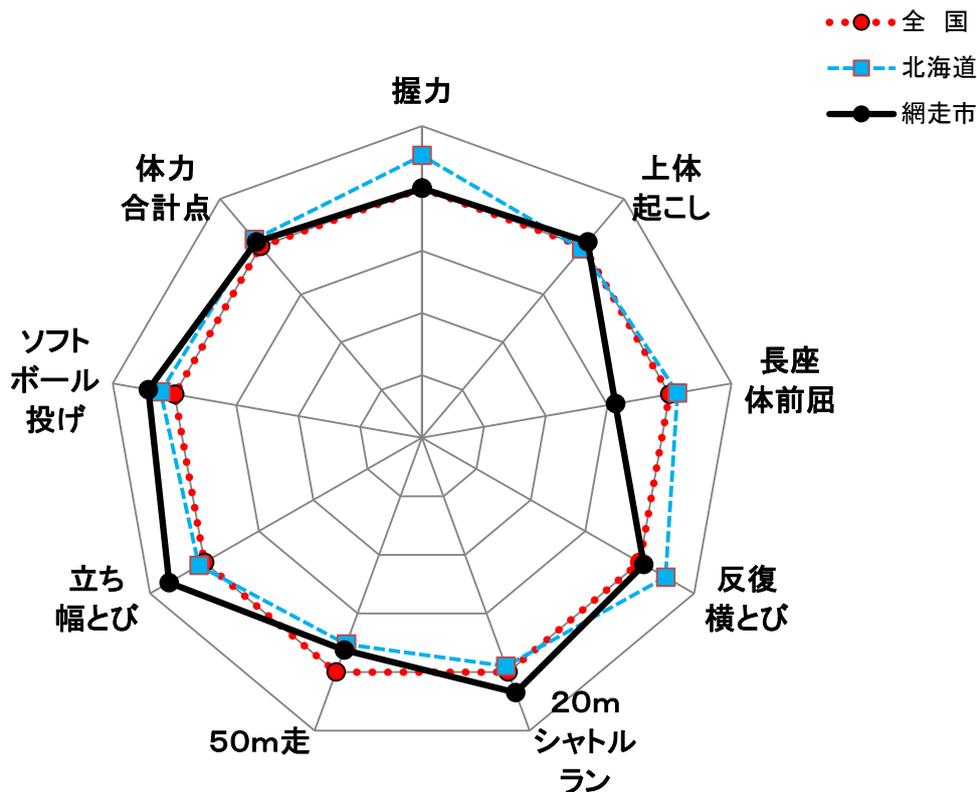
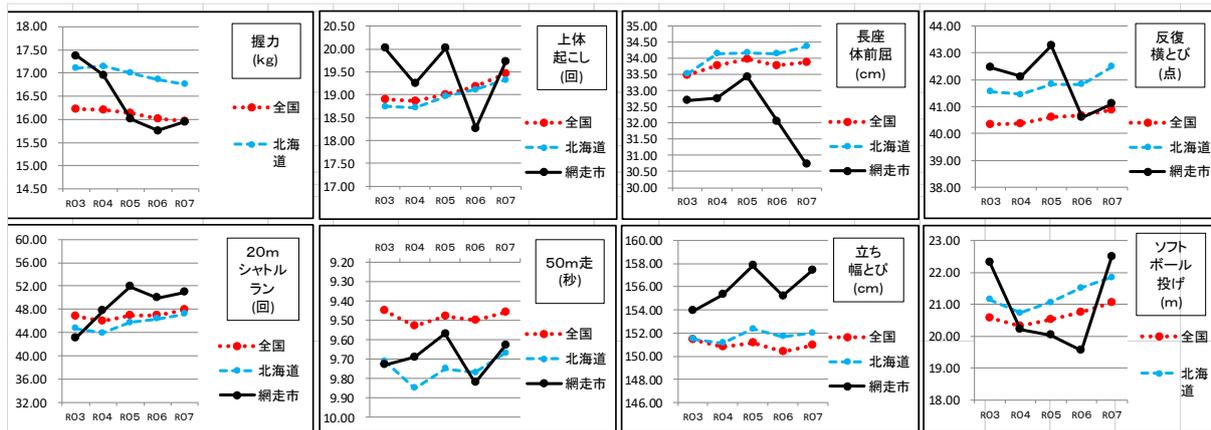
【中学校2年生女子】

身長は全国平均と同等（やや低め）であるが、体重は2kg以上重く、肥満傾向も14.3%で全国平均の約2倍になっている。運動実施率の低下と、それに伴う消費エネルギーの減少が体脂肪の蓄積につながっていると考えられる。

(2) 実技に関する調査

① 小学校5年生男子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール投げ (m)	体力合計点 (点)
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
北海道	16.76	19.33	34.37	42.49	47.16	9.67	152.02	21.85	53.60
R07網走市	15.95	19.73	30.73	41.11	50.93	9.63	157.43	22.49	53.41
R06網走市	15.76	18.27	32.06	40.61	49.93	9.82	155.20	19.55	52.09

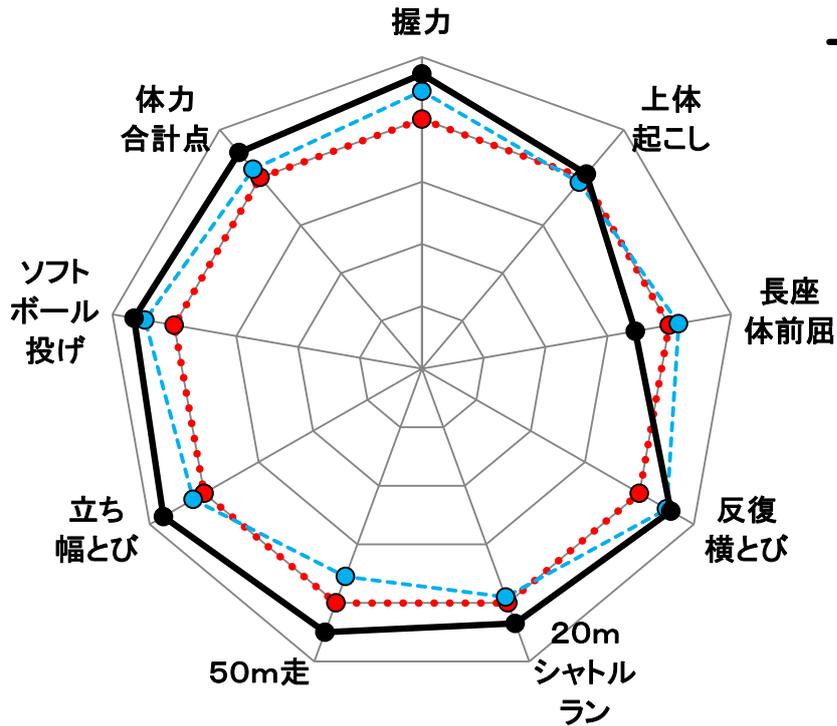
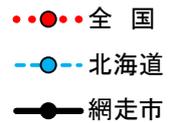
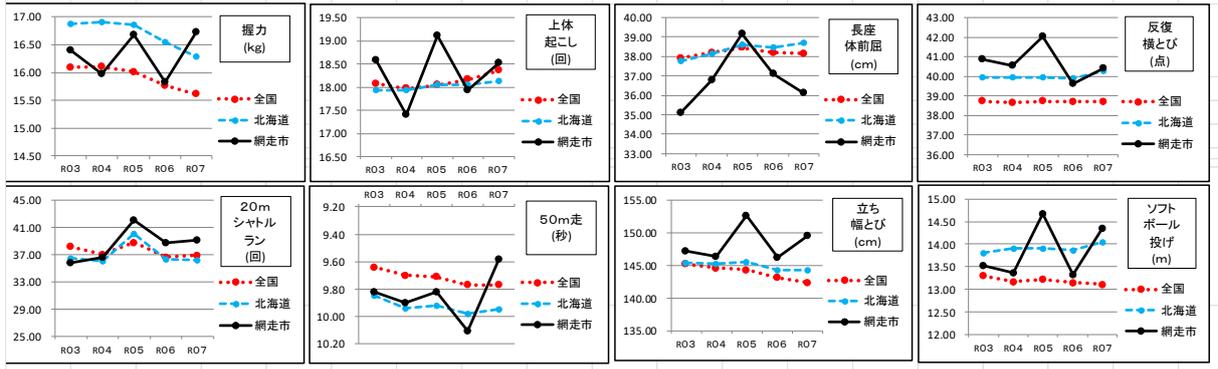


【小学校5年生男子】

ソフトボール投げ、立ち幅とび、20mシャトルラン等が全国平均を上回っており、筋力や全身持久力が高い。一方、長座体前屈が全国平均を大きく下回っていることから、柔軟性に課題がある。これは、怪我のリスクが高くなることが懸念されるとともに、動作の効率を下げる要因にもなると考えられる。

② 小学校5年生女子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シヤトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール投げ (m)	体力合計点 (点)
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
北海道	16.29	18.12	38.71	40.25	36.13	9.95	144.25	14.04	54.61
R07網走市	16.73	18.52	36.12	40.42	39.16	9.58	149.50	14.36	55.88
R06網走市	15.83	17.93	37.10	39.62	38.71	10.11	146.16	13.32	53.75



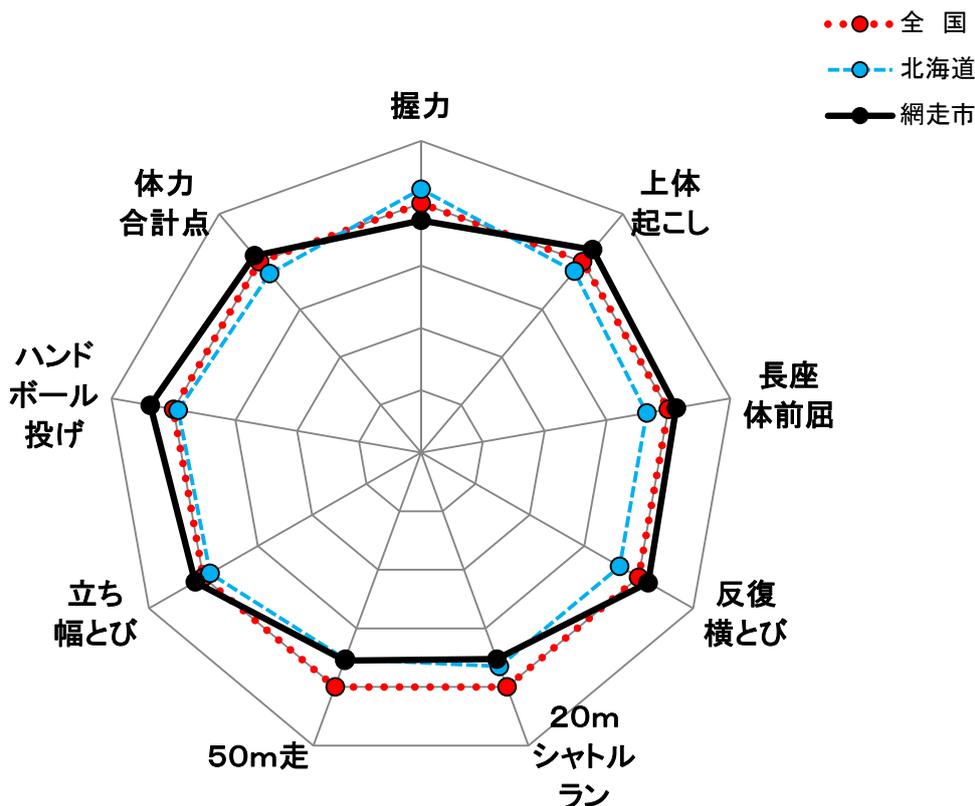
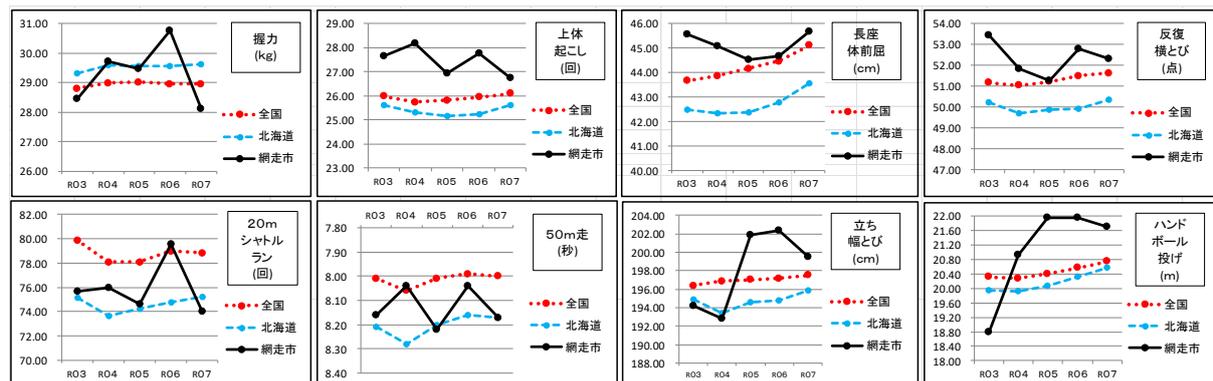
【小学校5年生女子】

立ち幅とび、50m走、ソフトボール投げが全国平均を大きく上回るなど、基礎的な運動能力が極めて高い水準にある。一方で、男子と同様、長座体前屈が全国平均を下回り、高い運動能力を持ちながら体が硬い傾向が見られる。

③ 中学校2年生男子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール投げ (m)	体力合計点 (点)
全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
北海道	29.63	25.61	43.58	50.36	75.24	8.17	195.81	20.57	41.05
R07網走市	28.11	26.75	45.69	52.32	74.04	8.17	199.48	21.71	42.79
R06網走市	30.76	27.75	44.69	52.78	79.57	8.04	202.30	21.94	43.41

持久走については対象が少ないことから記載しない。



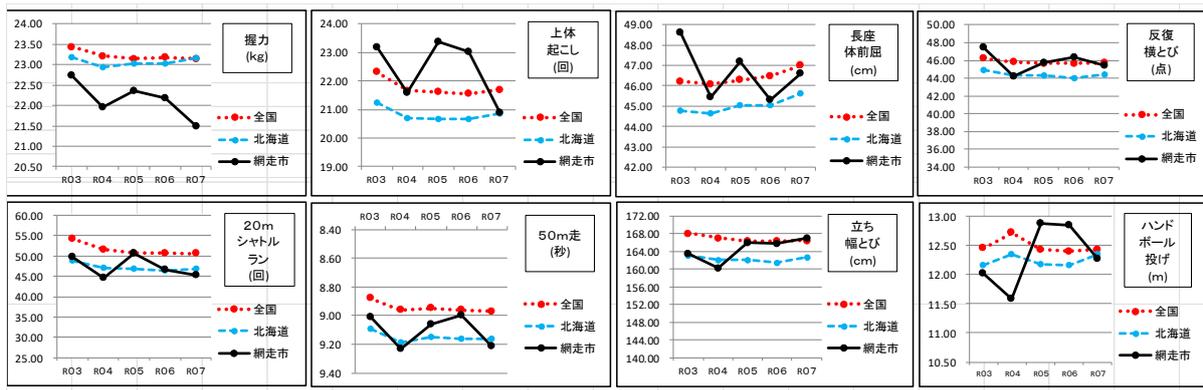
【中学校2年生男子】

ハンドボール投げ、立ち幅とび、反復横とび等が全国平均を上回り、投擲力や跳躍力、俊敏性が高い。一方で、20mシャトルランや50mが全国平均を下回り、体格が大きくパワーはあるものの、走力や持久力が伴っていない。

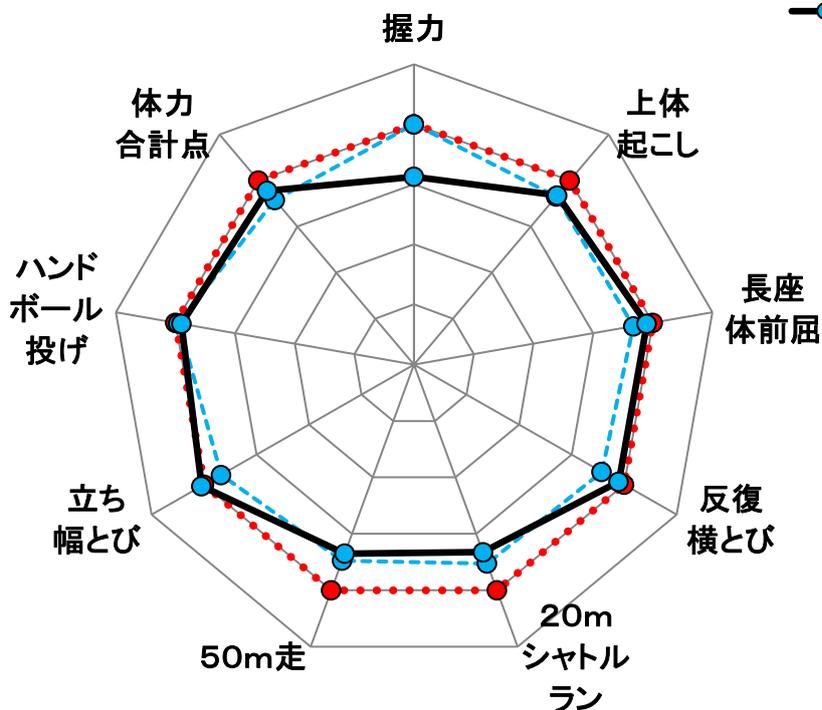
④ 中学校 2 年生 女子

	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンド ボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
全 国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58
北海道	23.17	20.85	45.62	44.40	46.84	9.16	162.75	12.34	45.62
R07網走市	21.50	20.88	46.60	45.40	45.20	9.21	166.97	12.27	46.57
R06網走市	22.19	23.03	45.33	46.38	46.51	9.00	165.74	12.85	47.29

※持久走については対象が少ないことから記載しない。



●●● 全 国
 - - - 北海道
 —●— 網走市



【中学校 2 年生 女子】

体力合計点を含め多くの種目で全国平均を下回っている。特に 50m 走や 20m シャトルランが低い。運動離れや持久的運動への忌避感、体脂肪率の増加（肥満傾向が全国平均の約 2 倍）等の影響があると考えられる。

(3) 児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査

① 運動に対する意識、運動習慣等の状況

		運動が 好き やや好き	運動部や スポーツクラブに入っ ている	中学校で 授業以外に 自主的に 運動したい	1週間の 総運動時間 (分)
小 5 男 子	全 国	93.4%	64.4%	64.2%	524.1
	北海道	93.5%	60.1%	66.2%	567.6
	網走市	96.8%	59.6%	67.8%	413.3
小 5 女 子	全 国	85.8%	48.8%	51.2%	315.8
	北海道	85.7%	46.3%	54.1%	373.7
	網走市	90.2%	52.5%	61.3%	302.7
		運動が 好き やや好き	(部活以外の) 地域のスポーツクラブに 入っている	中学校卒業後、 自主的に 運動したい	1週間の 総運動時間 (分)
中 2 男 子	全 国	91.1%	31.6%	61.9%	758.5
	北海道	92.1%	26.6%	63.7%	737.5
	網走市	92.7%	32.5%	67.8%	734.4
中 2 女 子	全 国	77.3%	20.0%	41.2%	520.3
	北海道	76.8%	16.4%	41.5%	490.6
	網走市	74.5%	8.5%	38.1%	498.6

発達段階および性別による顕著な特徴が見られる。

小学校段階においては、男女ともに運動を「好き・やや好き」と回答する割合が高く、休み時間や放課後に積極的に体を動かしている様子がうかがえる。特に小学校女子の高い運動能力は、この肯定的な意識に支えられていると考えられる。

しかしながら、中学校段階、とりわけ女子生徒においては、運動への肯定感が低下し、それに伴い1週間の総運動時間が減少する傾向が見られる。実技調査において中学校女子の体力合計点が伸び悩み、肥満傾向が増加している現状は、この「運動離れ」による活動量の低下が主因であると推察される。

また、運動習慣の「二極化」も大きな課題となっている。スポーツ少年団や部活動等を通じて週420分以上の運動時間を確保している層がいる一方で、体育の授業以外にはほとんど運動を行わない層が固定化しつつある。特に網走市特有の環境（冬季の積雪や寒冷な気候）により、日常的な外遊びや移動に伴う身体活動が制限されやすいため、意識的に運動機会を持たない児童生徒の運動不足がより深刻化しやすい状況にある。

「体育の授業は楽しい」と感じている児童生徒ほど体力合計点が高いという強い相関関係を踏まえると、運動が苦手な層に対しても「できた」「わかった」という達成感を持たせ、運動の楽しさを実感させる指導の工夫や、競技性にとらわれない多様な身体活動の機会を創出することが、運動習慣の定着に向けた課題と言える。

② 生活習慣

		朝食を 毎日食べる	一日の睡眠時間		平日にテレビ、DVD、スマホ、 PCなどの画面を見ている時間	
			8時間以上	6時間未満	3時間以上	1時間未満 全く見ないを含む
小 5 男 子	全 国	82.5%	71.8%	3.5%	42.7%	14.0%
	北海道	76.2%	71.7%	4.3%	50.3%	10.9%
	網走市	69.0%	61.3%	1.1%	57.7%	14.1%
小 5 女 子	全 国	80.4%	73.8%	7.2%	37.4%	18.6%
	北海道	73.2%	74.8%	7.0%	44.9%	14.7%
	網走市	74.7%	66.6%	1.2%	46.2%	19.2%
中 2 男 子	全 国	81.9%	38.2%	6.1%	50.8%	4.4%
	北海道	76.1%	39.8%	6.9%	57.6%	3.2%
	網走市	73.0%	41.8%	5.7%	63.9%	3.3%
中 2 女 子	全 国	74.4%	28.3%	8.6%	50.3%	5.1%
	北海道	67.9%	31.0%	8.9%	56.6%	4.4%
	網走市	63.2%	35.8%	5.7%	60.0%	2.9%

基本的な生活リズムの確立が体力の向上に不可欠であることが改めて浮き彫りとなり、特に「スクリーンタイム（テレビ、ゲーム、スマートフォン等の視聴時間）」の長時間化が大きな課題と言える。

平日1日あたりの視聴時間が長い児童生徒ほど、体力合計点が低くなるという負の相関関係が見られる。これは、画面に向かう時間が長くなることで物理的に運動する時間が奪われるだけでなく、夜更かしによる睡眠不足や睡眠の質の低下を招き、翌日の活動意欲や集中力を低下させていることが要因と考えられる。本市では、冬季の室内活動時間の増加も相まって、この傾向がより強まる懸念がある。

また、朝食の摂取状況についても体力との関連が見られる。「毎日朝食を食べる」と回答した層は、そうでない層に比べて体力・運動能力が高い水準で安定している。朝食は体温を上昇させ、脳と身体を目覚めさせるスイッチの役割を果たしており、午前中からの活発な身体活動を支える基盤となっている。

さらに、肥満傾向や痩身傾向が見られる児童生徒においては、運動不足に加え、食事バランスの偏りや生活リズムの乱れが影響しているケースも懸念される。体力の向上には、単に運動量を増やすだけでなく、家庭における「早寝・早起き・朝ごはん」の実践や、メディア機器との適切な付き合い方のコントロールといった、生活全般の質の向上が前提条件となる。

③ 体育・保健体育の授業の状況

ア 学校質問紙

		体育授業の目標を児童に示す活動を取り入れている		体育授業で学習したことを振り返る活動を取り入れている		体育授業で児童同士が助け合い、役割を果たす活動を取り入れている		体育授業で児童同士で話し合う活動を取り入れている		体育指導で授業中にICT機器を週1時間以上活用している
		いつも	だいたい	いつも	だいたい	いつも	だいたい	全ての学年	一部の学年	
小学校	全国	52.2%	46.5%	39.3%	57.6%	46.6%	52.1%	60.7%	38.1%	46.7%
	北海道	69.1%	30.5%	55.5%	43.5%	54.9%	43.7%	80.0%	18.0%	68.1%
	網走市	55.6%	44.4%	44.4%	55.6%	22.2%	77.8%	77.8%	22.2%	66.6%

		保健体育授業の目標を生徒に示す活動を取り入れている		保健体育授業で学習したことを振り返る活動を取り入れている		保健体育授業で生徒同士が助け合い、役割を果たす活動を取り入れている		保健体育授業で生徒同士で話し合う活動を取り入れている		体育指導で授業中にICT機器を週1時間以上活用している
		いつも	だいたい	いつも	だいたい	いつも	だいたい	全ての学年	一部の学年	
中学校	全国	71.1%	28.3%	57.5%	40.9%	54.5%	44.0%	89.9%	8.4%	61.6%
	北海道	83.4%	16.6%	67.9%	30.9%	64.3%	33.7%	93.2%	4.6%	86.8%
	網走市	66.7%	33.3%	50.0%	50.0%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	100.0%

イ 児童生徒質問紙

		体育の授業は楽しい	体育の授業で進んで学習に参加している	体育の授業で目標を意識して「できたり、わかったり」することがいつもある	体育の授業で友達と助け合って「できたり、わかったり」することがいつもある	体育の授業でICTを使って「できたり、わかったり」することがいつもある	体力・運動能力向上の目標を立てている
		小5男子	全国	73.7%	59.6%	32.9%	38.0%
	北海道	74.0%	59.8%	33.9%	38.3%	25.5%	77.1%
	網走市	74.4%	57.1%	33.3%	46.2%	22.8%	76.1%

小5女子	全国	56.9%	50.7%	23.4%	34.2%	17.2%	71.3%
	北海道	57.5%	49.5%	23.7%	34.3%	19.5%	72.9%
	網走市	56.8%	48.1%	27.5%	45.0%	18.5%	73.8%

		保健体育の授業は楽しい	保健体育の授業で進んで学習に参加している	保健体育の授業で目標を意識して「できたり、わかったり」することがいつもある	保健体育の授業で友達と助け合って「できたり、わかったり」することがいつもある	保健体育の授業でICTを使って「できたり、わかったり」することがいつもある	体力・運動能力向上の目標を立てている
		中2男子	全国	56.8%	47.2%	31.8%	37.9%
	北海道	58.6%	45.5%	30.3%	36.8%	29.2%	75.8%
	網走市	56.9%	43.3%	27.0%	32.8%	17.1%	65.0%
中2女子	全国	38.0%	37.2%	22.1%	30.2%	17.7%	67.7%
	北海道	38.4%	34.3%	20.8%	29.1%	20.0%	67.3%
	網走市	35.8%	26.2%	12.7%	21.9%	9.4%	59.4%

授業における「指導の工夫」と、児童生徒の「学習意欲・体力」との間に正の相関関係が見られ、特にICT機器が効果的に活用されている。

多くの授業において、自らの動きを動画で撮影して客観的に確認したり、手本となる動画と比較したりする活動が日常的に行われている。自分の動きを視覚的に捉えることは、運動感覚のズレを修正し、技能の習得を早める効果があるだけでなく、運動が苦手な児童生徒にとっても具体的な改善点を見出しやすい。「授業でできるようになった」という実感を持つ児童生徒は、友達同士でアドバイスし合う「協働的な学び」を積極的に行っている傾向もある。

また、授業構成においては、「めあて（目標）」の明確化と終末の「振り返り」が定着している。児童生徒が「何のためにこの運動を行うのか」を理解し、自らの課題に応じて練習方法を選択する場面を設定することで、主体的な学習態度が育まれている。

一方で、実技調査で課題となった柔軟性や持久力の向上に向けては、授業内での運動量の確保が重要と言える。準備運動の工夫や、待ち時間を減らす場づくりの工夫をさらに徹底し、全ての児童生徒が授業時間内で十分に体を動かし、運動の楽しさと心地よい疲労感を味わえる授業づくりが一層求められる。

3. 学校における体力向上・運動習慣定着に向けた取組

■■■ 改善に向けたポイント ■■■

調査結果を踏まえ、各学校では、以下のポイントに重点を置いて改善を図ります。

◆体育・保健体育の授業の充実

(1) 「授業は楽しい」「授業でできるようになった」が味わえるようにする手立ての工夫

- ①「授業の課題」「目指したい目標」「取り組む事例」「振り返りの方法」を明確にしなが、頑張った成果が実感できる授業を展開する。
- ②1人1台端末や電子黒板などのICT機器を活用し、自分の動きを確認したり、互いに教え合ったりしながら改善を図ろうとする活動を授業に取り入れる。
- ③友達同士で教え合ったり、話し合ったりする活動を取り入れることで、技術の向上や運動に対する充実感を得る児童生徒が多いことから、個に応じた場やルールの設定(個別最適な学び)、多様な他者との交流(協働的な学び)を授業に取り入れる。
- ④外部講師(学校支援地域本部事業)や、小学校体育における中学校体育教員の活用など、専門性の高い教員・講師等を活用した授業を行う。

(2) 見通す・振り返る活動の充実

- ①児童生徒が課題意識をもち、教師が提示した課題から個人のめあてを設定することができるよう、前時の学習の成果や課題を振り返る場面を設定する。
- ②個々の目標達成に向け、練習方法を選択することができるよう、運動の行い方のポイントや練習場所、練習方法を具体的に示す。
- ③児童生徒ができるようになったことや気付いたことなど学習の成果を確かめ、次時のめあてをもつことができるよう、課題と正対して振り返らせる場面を設定する。

(3) 体を動かす時間の確保

- ①児童生徒の実態に応じながら、体を動かす時間を十分確保するとともに、友達の動きを見て学ぶ時間、友達と話し合う時間を考慮しながら授業を構成する。
- ②「オホーツク運動プログラム」の実践例を参考にするなどして、準備運動の場面など短時間でできる運動を継続して行う。

◆新体カテスト実施の工夫

(1) 記録用紙の工夫

- ①過去の自己記録と比較して成長が実感できる記録用紙(体力手帳等)を用意する。
- ②「自ら進んでやる」動機付けとし、個人の体力に応じた目標を設定させる。
(種目ごとの記録、点数、前年度の全国平均記録など)

(2) 新体カテストの結果の活用

- ①新体カテストの実施方法や全国の記録、学校平均などを掲示する。
- ②全国平均と経年で比較し、走る運動等課題が見られる種目を重点課題として取り組む。

(3) 実施方法の工夫

- ①上学年が下学年に手本を示す、近隣の学校と合同で実施する、外部人材や保護者が計測に協力するなど、新体カテストの実施方法を工夫する。
- ②正確な計測に向け、全教職員でマニュアルを確認するとともに、全教職員が計測に携わるなど、全校体制で調査を実施する。

◆運動機会の創出

- (1) 体育的行事や児童会・生徒会行事において、運動が苦手な子も楽しんで参加できる種目を設定し、休み時間や放課後に目標に向かって協力しながら取り組める環境をつくる。
- (2) 部活動等の成果や活躍を家庭・地域に発信することにより、スポーツや運動を積極的に取り組もうとする意欲付けを図る。

◆家庭や地域との連携

- (1) 長期休業中に行われるラジオ体操や地域のスポーツイベントへの参加を推奨する。
- (2) 家庭での生活習慣確立のために、テレビ・ゲーム・スマートフォン等の使用時間の見直しのため、「生活リズムチェックシート」の積極的な活用を図ったり、家庭への呼びかけや家庭でできる運動などを周知したりする。
- (3) 土曜日に無料で利用できる体育施設（総合体育館、網走市民健康プール、スキー場など）の積極的な利用を呼び掛ける。
- (4) 廊下や体育館の掲示板にスポーツ少年団等の活動や募集案内等を掲示する。

4. 網走市教育委員会における体力向上・運動習慣定着に向けた取組

網走市教育委員会は、心身ともに健康な子どもを育成するため、以下の施策を推進します。

- (1) 心身ともに健康な子どもを育成するため、保護者や地域と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」といった望ましい生活習慣の定着や、運動に慣れ親しむ機会の創出を推進する。
- (2) 運動が苦手な児童でも取り組むことができるタグラグビーを小学校の教育課程に位置付けるとともに、教育長杯タグラグビー大会を開催する。
- (3) 各種スポーツ大会への参加促進を図ります。また、スキーやスケート、歩くスキーなど、冬季スポーツへの取組を推奨する。
- (4) 1週間の総運動時間を増やすため、徒歩通学の奨励、1校1実践の取組の充実、スポーツ少年団や部活動等への加入促進を図る。
- (5) 体育・保健体育の授業において、ICT機器の効果的な活用を図る。
- (6) 日本体育大学と連携し、小・中学校の体育授業における大学教員による授業や、教員向け研修を行い、体育指導の充実をサポートする。